令和８年３月６日

令和７年度とうきょう すくわくプログラム推進事業　活動報告書

園名	東京都立久我山青光学園
所在地	世田谷区北烏山 4-37-1

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

砂・泥・水あそび

＜テーマの設定理由＞

砂は場所や状態により、感触や温度などが変化し、触れることを通してその不思議さや面白さが幼児の感覚を刺激する。また、砂は可塑性があり、幼児の働きかけによって変化する楽しさがある。その変化に応じて幼児が次の働きかけをしたり、見立てやイメージを広げたりすることであそびが展開し、新たな発見や気付きが生まれることが期待できる。更に、それらの気付きや面白さを共有することで、幼児同士の関わりを広げていくことも期待でき、幼児の探究活動に適していると考え、本テーマを設定した。

本校に在籍する幼児は視覚障害があり、見る代りに触ることで理解したり情報を得たりしている。しかし、慣れない物に触れることや汚れることの苦手さから、砂にじっくり触れることも難しい幼児もいる。砂場を中心に遊びの環境を整え、砂遊びの経験を増やす中で、探求心や幼児同士の関わりを育むとともに、上手に触る手、知ろうとする手を育むことも目指したい。

２．活動スケジュール

＊5～10 月の間に、毎月３回以上の「砂遊び」の設定活動を実施

＊幼児の姿を保育者間で共有し、遊び方に応じ、適宜環境整備を実施

５月～　砂場環境の整備（砂をほぐす、必要な物を自分で探せるように設置する、など）
　　様々な砂の感触をじっくり楽しむ遊び

６月～　穴、川（溝）を拠点とした遊び
　　砂に水を加えた遊び　　等

９月～　水場や日除けタープの設置
　　砂の増量、泥んこ遊びエリアの設置
　　山、トンネル、水を活用した遊び、泥遊び　　等

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】

・砂・土…　砂場の砂、泥遊びの土（荒木田土）

・水…　プール（小）、たらい、バケツ、ホース　など

・道具…　スコップ、じょうご、カップ、ままごとの道具

袋、ペットボトル、ペットボトルのふた、雨樋など　工夫して使えるもの

・日よけタープ　など

【環境】

・砂場の砂の状態を子供たちの遊びや興味に応じて変化させた。

・主体的な活動を引き出すために、幼児が自分で動けるよう場を構成し、道具を精選して配置した。

４．探究活動の実績

○様々な感触への気付き

【活動内容】

・砂に手で触れ、慣れることから始め、裸足になり足裏、膝下と砂に触れられる部分を広げた。

・新しい砂、湿った砂、乾いて固まった砂、土など、様々な砂の感触に遊びの中で自然に触れるようにした。

【幼児の姿・気付き】

・裸足で砂場に入るようになり、砂の感触の気持ちよさに気付けた。
場所により足裏から伝わる温度の差に気付き、砂場を歩き回り、どこが温かいか探す姿が見られ、陽の当たり方への関心も広がった。

・サラサラの砂、乾燥して石のように固まった砂、固まった砂を壊すときのホロホロと崩れる砂、水が加わって固くなる砂、水に流されていく砂、同じ砂でも様々な感触があることや、その違いの面白さに気が付けた。自分の好きな感触の場所を探し、自分から移動する姿が見られた。

・砂と土の感触、硬さ、水との親和性の違いなどに気付き、感触を楽しむ姿が見られた。

好きな感触の場所を発見！

壊れないなぁ…
土の塊は硬いんだね。

土に水を入れたらトロトロだ！

○水が砂や物を押し流すことへの気付き

【活動内容】

・砂場付近に水場を設置したところ、友達のところに水を運ぶ「お水屋さん」遊びが展開した。ペットボトルなどで少しずつ流し入れたり、大きな袋で協力して運び滝のように一気に流し入れたりなど、砂と水での遊びが展開した。

・雨樋を用いて、水場から砂場へ水が流れるようにし、砂やペットボトルのふたなどを流すことを楽しんだ。また、雨樋を短く切ったような形の道具を用いて、半円二つを合わせて筒状にし、触れても崩れにくいトンネルを作り、物を通したり流したりして楽しんだ。

【幼児の姿・気付き】

・掘った穴に足を入れ、そこに勢いよく水を流し入れた後に、水が引くと足が砂に埋まっていたことに気付き驚く様子が見られた。足が埋まる面白さ、足を引き抜くときにはずっしりと重さを感じるなど、様々な気付きの姿が見られた。

・水が砂を押し流すことに気付き、水が流れる雨樋に繰り返し砂を置いて、次第に砂がなくなることを確認する姿が見られた。

・砂や水を流す係と下流で受け止める係など役割を分けて協力して探求する姿が見られた。流れる様子を視覚的に確認することの難しさから、声を掛け合い確認しながら遊ぶ姿が見られた。

・発見したことや面白いと感じたことを友達にも伝えることで、場を共有して遊ぶ姿が見られることが増えた。

あれ、足が抜けないよ…

「砂を置くよー」「おっけー！」

「いくよー！ふたをいくつ流したでしょう？」

５．振り返り

一般的に砂遊びの広がりには視覚的刺激からの影響が大きく、本校の幼児にとって砂場遊びは展開が難しい面もある。しかしながら、初めに砂にじっくりと関わり親しみがもてる時間を十分設けることで、感触の楽しさを入り口に、興味が広がり、探求心が芽生え、繰り返したり、試行錯誤したりしながら主体的に活動する姿が見られるようになった。また、遊びの中で道具を扱ったり、物を操作したりしながら、手や体の使い方も育まれていくことを感じた。更に、個々がそれぞれの方法でじっくりと砂と関われる時間を経た後、そこで得た気付きや面白さを友達と共有することで、個々の遊びがつながり幼児同士の関わりが広がる様子が見られた。幼児がじっくり活動に取り組める時間を確保することも、探究活動を広げることにつながったと感じた。穴を掘ったり、山を作ったりして遊びの拠点となる場所を設け、幼児同士が互いの存在を感じられる距離にいることも、友達を意識させやすくし、関わりの広がりにつながることが分かった。

保育者は、指導者としてではなく遊びの仲間として振る舞い、視覚による情報不足を言葉で補い、幼児同士をつなぐことを意識した関わり方をすることが大切である。また、手伝いすぎず、幼児が自分で思いを実現できるような環境を整え、主体性をもった展開となるよう支援していくことが大切であると感じた。

以上